

剣道の指導について

東・西 中央講習会 指導法資料
平成 30 年 3 月 31 日(土)～4 月 1 日(日)

【全日本剣道連盟 平成 30 年度事業計画(指導委員会)】

◎剣道を正しく普及するための指導のあり方について研究を行う。

- (1) 「剣道の理念」「剣道修錬の心構え」「剣道指導の心構え」を基盤にして指導を推進する。
- (2) 「日本剣道形」「木刀による剣道基本技稽古法」「竹刀稽古法」の位置づけとつながりを踏まえた各々の指導法の充実を図る。実技・実技剣道・技術講習
- (3) 講師要員(指導法)の講習・研修を実施し、指導法講師の養成を図る。
- (4) 女子剣道指導法講習会を実施し、技能の向上ならびに指導力の向上を図る。
- (5) 本連盟刊行の「剣道指導要領」「剣道講習会資料」「日本剣道形解説書」「木刀による剣道基本技稽古法」「剣道社会体育教本」「剣道授業の展開」の活用を図る。
- (6) 国内外の各層・各領域に剣道を正しく普及させるため、関連の専門委員会と連携しながら、より適切な指導法のあり方を検討する。

「講習会資料」に基づく指導法の基本概念の展開方法

講義

・指導法講習における基本的事項

1. 指導の在り方について

剣道の理念・剣道修錬の心構え・剣道指導の心構えを基盤として、その内容を具現・具象化しなければならない。そのためには剣の理法(心法・刀法・身法)について総合的に学習することが指導の根本である。

(1) 剣道指導者の在り方について

指導者は技能や人格が学習者に大きな影響を及ぼすことを自覚して、剣道指導の心構えに基づいて剣道観・技量・指導経験等の指導力によって学習者の要求に的確に答えることが求められる。

※例 師弟同行・良師を得なければ学ぶに如かず・温故知新

(2) 剣道指導の在り方について

受講者の特性に応じて効果的に指導する。

ア、技能区分

初心者・初級者(三段以下)・中級者(四段および五段)・上級者(六段以上)の剣道指導

イ、その他の区分(年齢・性別・国別)

少年・成年・高齢者・女子・外国人の剣道指導

2. 指導内容の要点

従来の指導法では「日本剣道形」「木刀による剣道基本技稽古法」「竹刀を使用しての稽古法」として、それぞれ取り組んできました。今回この三つの稽古法の大きな特徴である「刀・木刀・竹刀」を使用した稽古法の繋がりを明確にするため、刀による日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法・竹刀による竹刀稽古法として位置づけして、剣道の原点である「剣の理法」を先ず学び、更には「刀法の原理・理合」「作法の規範」の修習を図り、ひいては「竹刀による剣の理法の修錬」へと結び付くことの意味を深めて、剣道指導の心構えである「竹刀による心気力一致」を目指すものである。

3. 竹刀稽古法の要点

技術指導及び修習について専ら木刀による剣道基本技稽古法にある基本1から基本9まで剣道具を装着して行い、「刀法の原理・理合」「作法の規範」の修習を主眼とすることを踏まえて竹刀稽古法に繋ぐことが求められる。そして竹刀稽古法において「剣道講習会資料」にある指導要綱に基づいて指導目標・指導事項・指導内容等の修習を目指すことが竹刀稽古法の要点である。

(1) 基本動作

初心者・初級者を対象とした竹刀稽古法は基本1・基本2によって大きく、強く(大強速軽)の教えに基づいて行い、「気剣体の一致」の理合を理解させると共に技術指導及び修習を怠らなければならない。

(2) 応用動作(対人的技能)

中級者・上級者を対象とした竹刀稽古法は主に基本3から基本9により応用動作の修習を図る。

このレベルは高い水準の剣道を目指すものである。従って「重点事項」に記す項目を徹底指導する。

ア、刃筋・手の内・冴え・鎬を意識した竹刀の操作を徹底指導する。

イ、一足一刀の間合から、一拍子で正しく打ち切る技能を中心課題とすると共にそれぞれの技量に応じて理に適った応用技の習得を図る。

ウ、正しい攻防の指導を徹底指導する等々。

※基本動作・応用動作は修練の過程でどの段階までが基本で、どの段階から応用になるといった区分は出来ない。つまり初心の段階であっても、熟練の段階であっても錬度に応じたそれぞれの基本があり常に基本動作の内容を念頭において指導することが大切である。

持田盛二先生 遺訓

剣道は五十歳までは基礎を一生懸命勉強して、自分のものにしなければならぬ。普通基礎という、初心者のうちに修得してしまっただけだと思っているが、これは大変な間違いであって、そのため基礎を頭の中にしまい込んだままの人が非常に多い。

私は剣道の基礎を体で覚えるのに五十年かかった。

私の剣道は五十を過ぎてから本当の修行に入った。心で剣道しようとしたからである。

六十歳になると足腰が弱くなる。この弱さを補うのは心である。心を働かして弱点を強くするように努めた。

七十歳になると身体全体が弱くなる。こんどは心を動かさない修行をした。心が動かなくなれば、相手の心がこちらの鏡に映ってくる。心を静かに動かされないよう努めた。

八十歳になると心は動かなくなった。だが時々雑念が入る。

心の中に雑念を入れないように修行している。

惟うに剣道は人を切るに非ず 自己の邪念を断ち 常に不動心を養い 心身を鍛錬して聡明なる理智と果敢なる意志 温和なる情操を育て 又師に厚く相互の礼を守り より高い心と技を求めて修行し 人倫の大義を知りて人の道に通ずる大道を踏み行い 世を益するにあり